

大阪大学大学院人間科学研究科 第1回市民公開講座

想いはせる



日時:2017年 3月11日(土) 13:30~16:30 (開場:13:00)

場所:大阪大学大学院人間科学研究科

本館 キャンピールホール (51講義室)

参加費:無料(申し込み先着順 定員150名)

※終了後、本館内でティーパーティを行います。

ご来場の皆様と講演者らとの歓談のお時間といたします。



第一部

「ありがとう」が社会を安全にする？

—感謝と禁止のメッセージが違反抑止に及ぼす影響—

人間行動学講座 安全行動学分野 臼井 伸之介 教授



「学歴分断社会から学歴共生社会へ」

社会環境学講座 社会データ科学分野 吉川 徹 教授

<休憩>

第二部

「コンポジウム「想いはせる」」

未来共生学講座 共生社会論分野 千葉 泉 教授

臨床教育学講座 教育人間学 岡部 美香 准教授



主催:大阪大学大学院人間科学研究科 附属 未来共創センター

協力:大阪大学21世紀懐徳堂

お申込み・問い合わせ先:mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp

講演要旨は裏面を
ご覧ください



第一部

「ありがとう」が社会を安全にする？

－感謝と禁止のメッセージが違反抑止に及ぼす影響－

人間行動学講座 安全行動学分野 臼井 伸之介 教授

私たちの日常生活においては様々なリスクが存在します。例えば交通事故は日常的に発生し、その防止は重要な社会問題となっています。そのようなリスクから身を守るため、また円滑な社会生活を送る上で、私たちは常日頃から「ルールを守る」ことが求められます。例えば駐車禁止、進入禁止、ゴミのポイ捨て禁止などです。そのようなメッセージでは多くの場合、「〇〇禁止」という表現が使われます。一方、トイレ等で「きれいなご使用ありがとうございます」という感謝メッセージを目にすることがあります。このようなメッセージ表現の違いがわれわれのルール遵守に何か影響を及ぼさないでしょうか？ このような疑問から私たちはドライビングシミュレータを用いて、感謝と禁止のメッセージが違反抑止に及ぼす影響を実験的に検討しました。当日はその実験結果を示しながら、人と人、また人と社会の係わりと安全の関係について考えてみたいと思います。

学歴分断社会から学歴共生社会へ

社会環境学講座 社会データ科学分野 吉川 徹 教授

みなさんは、日本の成人の何%が大卒層で、何%が非大卒層であるか知っていますか？また、あなたがこの数日のうちに会話をした家族、友人、知人を思い浮かべたとき、ほとんどが自分と同じ学歴だということはありませんか？いま、大卒層のライフ(人生=生活)と非大卒層のライフ(人生=生活)の交わりが減っていき、お互いの姿がよくわからなくなりつつあります。

今回はこの学歴分断が親子の世代を超えて再生産している日本社会の深刻な実態を、社会調査データに基づいて解説します。ただし、この実態を改善するには、わたしたちの考え方や社会の見方を根本的に変えることが求められます。もしあなたが大学進学していなければ、いったいどうなっていたでしょうか？この講座を、わたしたちの社会を支える「もう一人の自分」に想いはせるきっかけにさせていただけると幸いです。

第二部

コンポジウム「想いはせる」

未来共生学講座 共生社会論分野 千葉 泉 教授

臨床教育学講座 教育人間学 岡部 美香 准教授

コンポジウムとは、講演者の話題提供をきっかけに意見を述べ合うシンポジウムと、音楽を聴くとともに声を合わせて歌うコンサートを組み合わせたものです。

みなさんは、いま・ここにいない誰かに想いはせたことがありますか。例えば、遠くに住む家族や友人。過去の自分。未来の自分。もういない人たち。これから生まれてくる人たち。そして、テレビや新聞の報道を通して知る世界各地の人びとや被災地の人びと…。

メッセージ入りの小瓶をそっと海へ流すように、自分のこの想いがいつ誰に届くのか、それは誰にもわからない。それでも、自分が生きるいま・ここをこえて、どこかの誰かに想いはせてみる。それは、その誰かへのかけがえのない「おくりもの」(贈与)です。

コンポジウム「想いはせる」では、いま・ここにはいない誰かに「想いはせる」技法を生み出し文化として育んできた人間のあり様から、今日の社会やコミュニケーションのあり様を考えます。



【アクセス情報】

大阪府吹田市山田丘1-2
※公共の交通機関をご利用ください。

- ・大阪モノレール 彩都線「阪大病院前」下車
- ・路線バス「阪大医学部前」下車
茨木方面から 近鉄バス
阪大本部前(24系統)行き
千里中央方面から 阪急バス
「阪大本部前」(164系統、171系統)行き
「茨木美穂ヶ丘」(103系統、105系統)行き